

公園編

校庭の芝生化



取材協力者
佐藤光利氏

今回の公園編は、最近ブームになりつつある校庭の芝生化を取り上げます。昨年秋、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会のスポーツ・青少年文化会は、「子どもの体力向上のための総合的な方策」について答申し、子どもがけがを恐れず思い切って体を動かすために学校等の運動場の芝生化が重要であるとまとめました。校庭の芝生化はすでにいくつかの学校で取り組まれています。その一例として千葉県印旛村平賀小学校の芝生化について取材しました。

校庭の芝生化を実現された方に聞く

相手：財団法人 千葉市スポーツ振興財団施設課

佐藤 光利さん

(前 千葉県印旛村平賀小学校校長)

Q：'97年の平賀小学校校長時代、校庭の芝生化に取り組まれたと聞きました。きっかけは？

A：平賀小学校は印旛沼に囲まれた高台にあり、風の強いところで校庭の砂埃が多かった。ひどい時は子どもたちが砂埃で見えず、授業ができないくらいでした。周りには養護学校や住宅もあり、迷惑解消のため試行的に敷地の境界に芝生

を植えたのが最初です。やってみると効果があるので、校庭全体を芝生化したんですね。

Q：芝生の設計や施工はどうしましたか？

A：設計は種の会社に勤めている知人から教わり、レイアウトの素案をわたしが作りPTAにも相談しながら決めました。施工は学校の先生やPTAの方々に協力していただきながら、皆さんと一緒に施工しました。

Q：芝生化で苦労されたことは？

A：最初は施工後の養生や維持管理の知識もなく、肥料をやらなければならないことすら知りませんでした。芝生用機械のメーカーの人やゴルフ場のグリーンキーパーの方等に教わりながら知識を深めていきました。

Q：芝生の利点と欠点は？

A：芝生には「見る芝」と「使う芝」の2種類があります。校庭の芝には運動や遊びを行える「使う芝」が好ましく、防塵等の効果（環境面）、活動しやすい環境の提供（健康面）、緑化環境の学習（教育面）の三つの利点があります。

一方、「使う芝」とはスポーツターフに分類され、正しい専門知識に基づく適切な管理が必要で費用もかかります。それが採用を躊躇させるマイナス要素になります。

Q：現在も芝生に携わっておられると聞いています。

A：千葉市の校庭芝生化に向けた検討をしており、芝生化がひとつでも多く実現するよう技術面の整理や維持管理の組織体制についてアイデアを絞ってい



写真-1 平賀小学校の校庭（千葉県印旛村）

ます。そのため昨年は先進地であるアメリカを訪れ、芝生管理の研修を受けたり、小学校を視察しました。

Q：具体的な構想は？

A：スポーツターフの維持管理機材をそろえようと思うと1500万円程度必要になる。日本は海外に比べて機械が高価で、各小学校に配備するのは予算的にも難しい。よって専門家チームに機材を与えて数校まとめて管理するような体制の方が現実的だと思う。専門家チームは2、3人の少人数で、シルバー人材等を活用した軽作業アルバイトを雇いながら作業するイメージです。

Q：最後に設計、施工業者等への要望は？

A：スポーツターフを設置し維持管理するにはどうしても費用がかかります。床土の材料、排水設計等も良いスポーツターフの成長には重要な要素です。機械メーカーの方を含めて関係する方々には、できるだけ安く提供してもらえるようにしてほしいですね。

平賀小学校を訪ねて

斉藤文彦（編集委員）

平賀小学校は、成田国際空港に程近い印旛沼に囲まれた丘陵地帯にありました。順天堂大学や宅地造成された住宅地が隣接し、田園風景と緑に囲まれています。

最初に驚いたのは、先生方が校庭を走り回るトラクターを指差し「校長は今芝刈をしていますので。」の一言。組織のトップが芝刈をしているのはあまり聞いたことがありません。

校庭の芝生に立つと、今度はその感触に驚かされました。普通の公園の芝生に比べて芝が均質に密集し、刈り揃えられた毛足も程よく高級ホテルのじゅうたんのような感触で



写真-2 芝刈作業をする久本校長先生



写真-3 元気に遊ぶ子どもたち

す。芝生の維持管理に興味をもち、いくつかお聞きしました。

1．年間の管理費

肥料代として年間10～30万円程度の予算で運営。トラクターやハンドガイド式芝刈機などの燃料代もあるが微々たるもの。

散水は井戸水を利用しているが、過去に水道水を利用していた時代は水道代が年間200万円程度要した。

2．芝刈りの頻度

芝の成長が早い4～7月の間は、ほぼ毎日のように芝刈を行う。久本校長先生は予定がない限り午後は芝刈をするそうで、今年は5月の連休も芝刈をしたそうです。8～12月は成長が遅くなるため頻度が少なくなり、一週間に2～3回程度になる。1～3月は成長が止まり芝刈はない。

3．管理の体制

先生方とPTA、地域の方の協力で管理しており外注はない。先生方は交代で朝6～7時に早出し、散水作業を行っている。雑草取りも教職員とPTAで行っている。

以上のように、関係者の協力を得ながら維持管理費を極限まで低減しています。先生方が中心となって管理していくのは苦労が多いようですが、子どもたちが寝そべったり、思いつき転ぶことができる芝生の良さを実感されていました。

さらに、久本校長先生の印象的な言葉がありました。「(毎日の芝刈りも)芝を刈っていると思うからイカン。校庭で子どもたちがどう遊んでいるか運動しているかを見ており、ついでに芝を刈っているだけ。毎日、校長が校庭にいれば、不審な人も立ち寄りませんよ。」